平成20年度発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業

一人一人の子どものよりよい指導や支援のために

みんなで力を合わせる

北海道教育委員会

教育
幼稚園・保育所
学校
教育センター
教育委員会　等

福祉
子ども発達支援センター
児童相談所
障害者福祉センター
等

医療
かかりつけの病院
専門医療機関　等

その子らしく輝くために活用するもの

関係機関と個別の教育支援計画

保健
保健所
保健センター　等

労働
ハローワーク
障害者職業センター
就業・生活支援センター
地域生活支援センター
等

その他
親の会
地域活動グループ
NPO　等

特別支援教育を進める上では、幼稚園・保育所から小・中学校、高等学校等、さらにはその後の教育や就労など、生涯にわたって、必要な情報を引継ぐことが大切です。

「個別の教育支援計画」やその他の資料を活用して引継ぎを行うと、新たな支援者が指導上の配慮を考えるヒントとすることができ、次の段階の生活へスムーズに移行するための助けとなります。

つなげることでその子らしさがより輝きます　～個別の教育支援計画を活用して～

子育ての宝物に！
始まりは「母子手帳」から

幼稚園の担任が母子手帳に添付されたシートと個別の教育支援計画の記述内容が同じものであることを教えてくれました。

今、考えてみると「母子手帳」が個別の教育支援計画のスタートでした。

便利な記録に！
クラス替えもスムーズ

小学校は2年おきに学級担任がかわりましたが個別の教育支援計画に生育歴、成長の様子、これまでの指導計画が記載されているため、担任が変わっても、同様の指導や支援を継続して受けることができました。

また、新しい担任に生育歴など同じ内容を説明する必要がありませんでした。

校内連携の記録に！
教科担任も支援してくれる！

中学校入学当初、息子は、教科ごとに、授業の進め方や宿題の出し方などが異なることにとまどい、不適応を起こしていました。

しかし、個別の教育支援計画で息子への接し方等が、教科担任間にも引継がれ、どの教科でも、同様の支援が行われるようになりました。

将来につながる
現場実習への活用

個別の教育支援計画に記載したことで得意な教科や作業等について現場実習先では、本人の特性にあった作業を準備してくださり、4週間の実習をやり遂げることができました。また、就労先を決定するときにはその実習記録が役立ちました。

特別支援学校（幼稚部・小学部・中学部・高等部）

幼稚園 保育所 → 小学校 → 中学校 → 高等学校 大学、専門学校 など → 進路先へ

福祉・医療・労働などの関係機関

どんなときに使うのですか？

保護者、担任、専門機関の職員など関係者が集まって作ります。

授業参観後の話し合いで…

A町では毎年夏休みが終わった頃に小学校の管理職や特別支援教育コーディネーターが幼稚園の授業参観を行い、保護者と幼稚園、小学校の教員が、支援について話し合いを行っています。このときの記録が、入学後の支援に大変役立っています。

校内支援会議で…

B中学校では、新入生を迎えた4月に生徒指導会議を行っています。この会議では、特に、学習上、生活上特別な教育的支援が必要な生徒について共通理解を図っています。保護者から提供された個別の教育支援計画の情報は大変役立っています。

進路指導で…

C高等学校では、教育局の進路相談員の協力を得て、進学、就職のための記録をまとめています。必要に応じて特別支援学校の相談等を活用し、専門家の意見を参考にしながら進路指導を進めています。

進路先の施設長から

個別の教育支援計画は、教育が終了した後も役に立っています。新しい作業課題に取り組むときに、本人の特性や、これまで経験した作業などが記録として残っていると、支援がしやすいです。何より、自分の得意なことがいち早く周囲の者に伝わることは大きなメリットです。

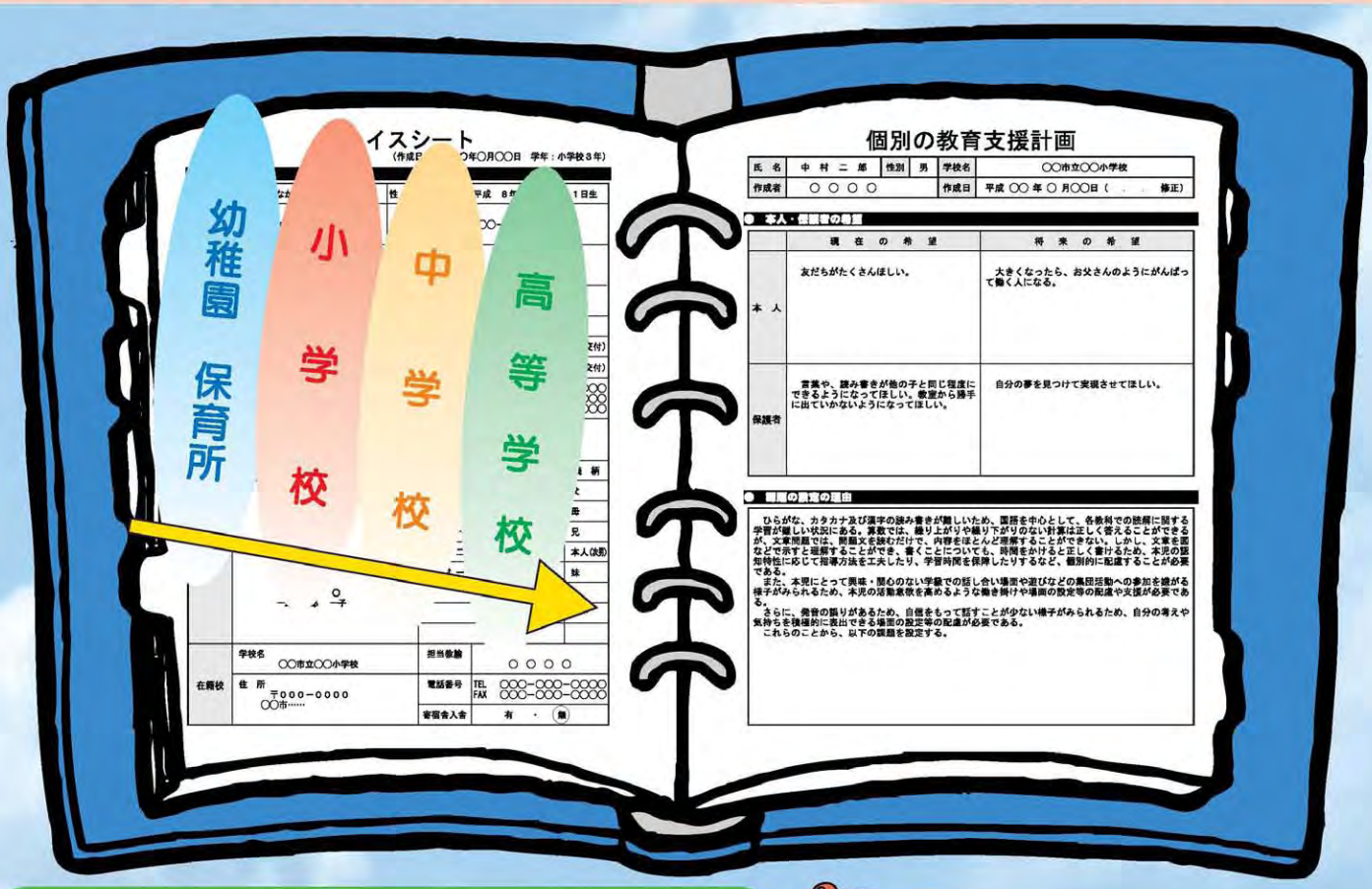
お子さんの応援団を作りませんか？

一人で悩んでいませんか？

お子さんにかかわる人々が力を合わせ、チームで一緒に考えていきましょう。

保護者もチームの一員です。お子さんに合った指導や支援を一緒に考え、具体的な支援の計画をつくりましょう。この計画のことを学校では「個別の教育支援計画」と言います。

※計画についての具体的な内容はお子さんが通う幼稚園・保育所や学校の担任の先生にご相談下さい。



本人とともに作る

特に、中・高校生くらいになると自分の人生をよりよく生きたいという願いが強くなります。本人がどのような夢を膨らませ、どのような理想を描くかということが、その後の人生に大きな意味をもつことを理解し、本人のなりたい職業や、やってみたい仕事を個別の教育支援計画に記載するなどして本人とともに支援内容を考えていくことが大切です。

個人情報の取扱いはどうなりますか？

この計画には、お子さんにかかわるさまざまな人が力を合わせて連携した指導や支援を行う上で必要な情報を記載します。

具体的な内容は、保護者と十分に話し合って記載し、保護者が同意した人以外へは公開しません。計画は保護者が保管します。

（在学中は、保護者の同意を得て学校が一時保管することがあります。）

保護者から

子どもの育ちの一歩一歩が記録できて、保護者の願いや本人の希望も盛り込んでいけるものがあるといいなと思っていました。

個別の教育支援計画は子どもが何に困っているか見極め、どんな支援が必要か大事なツールになると思います。

これを活用することで、保護者と学校、相談機関、支援者等がつながり、子どもの応援団ができていくことを期待しています。

Q1 通常の学級に在籍していますが、個別の教育支援計画を持つことができるのでしょうか？

A1 個別の教育支援計画は、必要があれば作成し、活用することができます。どのような支援が必要なのか、担任と相談してみてください。

Q2 個別の教育支援計画を作成するときには誰に相談するとよいのでしょうか？

A2 個別の教育支援計画は本人（保護者）が主体となって学校等と作成するものです。まずは担任の先生に相談してみてください。

まずは担任の先生にご相談ください！

相談機関、相談方法及び個別の教育支援計画についての情報をお知りになりたい先生及び特別支援教育コーディネーターの先生は、管内教育局に設置されている特別支援連携協議会事務局又は下記の北海道教育庁学校教育局特別支援教育課までご連絡ください。

個別の教育支援計画の例

計画には、まずはじめに本人と保護者の希望を記載します。
一人一人の子どもの教育的ニーズに対応した適切な指導や必要な支援を行うためには、本人・保護者の希望を的確に反映させることが大切です。

「課題」として、設定した理由を記載します。
課題の設定理由を明確にすることで、子どもの教育的ニーズを具体化するとともに、支援の目標を適切に設定することができます。
この欄は、保護者と教員や支援者（機関）が相談しながら記載することが大切です。

課題に対応した支援の目標を設定します。目標は、まず、長期を見通したものを設定します。この事例では、２年間の期間で設定していますが、子どもの実態に応じて、各学校において適切な期間を設定することが必要です。
目標に基づく支援は、担任のほか、関係者が連携して取り組めるよう工夫することが大切です。

（様式３）

個別の教育支援計画

氏　名	中　村　二　郎	性別	男	学校名	○○市立○○小学校
作成者	○　○　○　○			作成日	平成　１８　年　○　月○○日（　．　．　修正）

本人・保護者の希望

	現　在　の　希　望	将　来　の　希　望
本　人	友だちがたくさんほしい。	大きくなったら、お父さんのようにがんばって働く人になる。
保護者	言葉や、読み書きが他の子と同じ程度にできるようになってほしい。教室から勝手に出ていかないようになってほしい。	自分の夢を見つけて実現させてほしい。

● 課題の設定の理由

ひらがな、カタカナ及び漢字の読み書きが難しいため、国語を中心として、各教科での読解に関する学習が難しい状況にある。算数では、繰り上がりや繰り下がりのない計算は正しく答えることができるが、文章問題では、問題文の内容を理解することにつまずきがみられる。しかし、文章の内容を図で解説すると理解することができる。書くことについても、時間をかけると正しく書けるため、本児の認知特性に応じて指導方法を工夫したり、学習時間を保障したりするなど、個別的に配慮することが必要で

● 課題・支援の目標

	課　　題	支 援 の 目 標 （長 期）
①	ひらがな、カタカナ及び漢字の読み書きが困難なために、学習への意欲が低い。	本児の認知特性等に応じた学習環境を設定するとともに、学習への意欲を高める。
②	興味・関心の少ない学級活動などの集団活動への参加が難しい。	２人、３人などの小集団の活動を活用し、段階的に社会性を高める。
③	発音の誤りがみられ、話すことに対して自信がもてない。	通級指導を活用し、発音の誤りを改善するとともに、興味・関心のある遊びなどを通して話すことへの自信を育むことが必要である。

http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/tkk/kobetushien_leaflet.htm

平成20年度発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業
広域特別支援連携協議会作成

北海道教育庁学校教育局特別支援教育課
電話 011－204－5774　FAX 011－232－1049